

# 村長行政報告要旨



## 平成30年度予算関連

平成30年度の地方財政計画は、地方が子ども・子育て支援や地方創生等の重要課題に取り組みつつ、安定的に財政運営を行うことができるよう地方交付税等の一般財源総額は前年度に比して356億円、0.1%増の62兆1,159億円となり平成29年度地方財政計画を上回る額が確保される見込みである。

本村の平成30年度一般会計予算は骨格予算を編成したことから前年度に比して、2億8,000万円、8.0%減の32億2,200万円となった。

歳入における普通交付税は地方財政計画において対前年度比2.0%の減となっており、今年度の交付決定額から約3,000万円を減じ、16億円を計上している。

歳出では、定住促進住宅整備事業8,902万円、林道肴沢線整備事業4,350万円、社会資本整備総合交付金事業1億9,300万円などを継続事業として計上している。

特別会計では、簡易水道事業が中部地区整備等に2億2,151万円、下水道事業は下水道工事として2,387万円をそれぞれ計上している。

## ふるさと納税関連

ふるさと納税については、2月末現在で約450件となっており、前年度に対し、件数で4倍、金額も

600万円を超え、200万円ほど上回っている。

増加の要因として、返礼品の充実や昨年4月からインターネットで納税を可能とする「ふるさとチョイス」へ参入した影響が大きいと思っている。

返礼品では、米関係が22%、肉関係が38%、生トマトが29%、その他加工品が11%となっている。

## ジュネス栗駒スキー場関連

入場者数は、2月末現在で前年の24,143人に対し、約3,500人の大幅な減少となっている。

様々な要因が考えらるが、特に「豪雪」の影響が大きいものと考えられる。しかしながら、合宿誘致事業については、前年を超える利用者がある。

3月には、スキー大会や昨年に続き全日本のスノーボード大会が週末ごとに開催される予定となっており、オリンピック効果も含め、大いに期待しているところである。

## アンテナショップ関連

昨年の春、東京神楽坂にオープンした「むらむすび」は、11月からランチもスタートしたところである。

「村」にこだわった食材による店舗として、常連客も増加傾向にあるようだ。

今後は、課題の改善を図りつつ、安定した売上と地元の食材や料理の提供に努めてまいりたい。

## 防災・豪雪関係について

役場の観測データでは、12月28日時点の積雪が、田子内で120cmに達しており、平年の約2倍、昭和48年以降では過去4番目の積雪となった。このため、雪害警戒部を設置し警戒してきた。その後も降雪が

続き、2月12日午前11時で田子内の積雪が224cmに達したことから、豪雪対策本部を設置し、防災行政無線等による注意喚起や職員・防災指導員によるパトロール等を行ってきた。田子内地区の最高積雪値は、2月14日に240cmを記録しており、平年の1.5倍となっている。

村内における雪害の状況として、これまでに、冠水等6件、水道管の凍結が9件、作業小屋の倒壊が2件、落雪による建物損壊が1件、除雪中の事故が1件報告されている。

今後は気温の上昇等による融雪災害が懸念されるので、引き続き、村内パトロールや防災行政無線による事故防止の呼びかけを行っていく。

## 国保事業関連

今年に入って各市町村の確定納付金等が公表された。

また、医療費の適正化に向け、特定健康診査及び特定保健指導により、生活習慣病の早期発見・予防に取り組んでいるが、今後、健康・医療情報を活用して、PDCAサイクルに沿った、効率的かつ効果的な保健事業の実施を図るため、「第2期東成瀬村国民健康保険データヘルス計画」を策定中である。

今後も事業の適正な運営に努めると共に、村民の負担が過度にならないよう国や県にも対策を要望していく。

## 介護保険事業関連

平成30年度は介護保険料を改定する年であり、今後3年間で必要となるサービス量を推計し、今般、保険料額を算定したところである。

被保険者の負担が大きくならないよう、基金を活用するなどしているが、サービス量の増加と介護報酬改定により、基準月額が5,700円となり、前期より900円増となった。